

第1回藤本伊三郎賞を受賞して



松坂 方士 専門委員

弘前大学大学院 医学研究科
地域がん疫学講座

このたび、第1回藤本伊三郎賞を受賞させていただくこととなり、大変光栄に存じております。弘前大学では昨年度から青森県がん登録の登録実務を受託し、また同じく昨年度からがん登録データの解析とそれに基づいたがん対策の提言を行う目的で寄附講座「地域がん疫学講座」が設置されました。私自身も地域がん登録に携わるようになったのは昨年度からのことです。このような早い時期に荣誉ある賞の受賞となりましたのは、ひとえに地域がん登録全国協議会の皆様からご指導いただきましたお陰と存じます。心からお礼申し上げます。

今回の受賞対象となりました演題は、2014年国際がん登録学会で発表した「Geographical distributions of stomach and colorectal cancer mortality in Aomori prefecture (青森県における胃がんおよび結直腸がん死亡率の地域分布)」です。胃がん死亡率の都道府県間比較では、特に東北において太平洋側と日本海側に大きな差があることは以前から知られています。青森県は県内にその両方の地域を有しており、市町村で胃がん死亡率の差が大きいことが予想されていました。その一方で、大腸がん死亡率は都道府県間の傾向が異なります。そのため、胃がんと大腸がんの死亡率について地域分布の違いを記述することで、今後の青森県における部位や地域差を考慮したがん対策の重要性を指摘したいと思ったのが本研究のきっかけでした。ただ、実際に解析してみると胃がんと大腸がんの死亡率はほぼ同様の地域的な傾向が認められ、当初の予想とは若干異なりました。この地域的な傾向は青森県における他部位のがんにも共通してみられる可能性もあり、今後は罹患率や診断時病期を含めて部位ごとの地域差やその原因の検討を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、わが国の地域がん登録が発展する基礎を築かれた藤本伊三郎先生のお名前を冠した賞をいただくことは今後の活動の大きな励みになりますと同時に、微力ではありますがわが国の地域がん登録のこれからの発展のために働かせていただく覚悟でございます。

今後とも、どうか宜しくお願いいたします。

第73回日本公衆衛生学会シンポジウム報告



大木 いずみ 理事

栃木県立がんセンター研究所
疫学研究室

2014年11月5日～7日に栃木県宇都宮市で開催された第72回日本公衆衛生学会では「地域がん登録」に関するシンポジウムをJACR(地域がん登録全国協議会)から企画しました。理事長の田中英夫先生(愛知県がんセンター)と清水秀昭先生(栃木県立がんセンター)を座長に、「がん登録からがん検診・がん対策へ～がん登録推進法成立を受けて～」と題し、シンポジストとしては松田智大先生「全国がん登録での国と都道府県との連携」、片野田耕太先生「がん登録のデータを活用してみませんか?」、井岡亜希子先生「がん登録のがん検診精度評価への活用」、茂木文孝先生「群馬県がん登録の資料を活用したがん対策」と4つのテーマが提示され、がん登録を正しく理解し科学的に公衆衛生活動へ展開する方法が紹介されました。2013年に成立したがん登録推進法への関心も高く会場は満席でした。質問も多く、公衆衛生関係者ががん登録を身近に感じていただきたいへんよい機会になりました。学会の特別講演として柳田邦男氏、鎌田實氏が招かれ、がんに関する他のシンポジウムや発表も活発に議論されました。地域がん登録全国協議会からはブースを出展し、ポスターや刊行物の展示も行いました。



地域がん登録全国協議会の展示ブース



シンポジウム会場のようす